

Ⅲ. 調査総括

1 保護者調査

1-1 就学前児童保護者

(1) 子どもと家族の状況及び日常生活について

子育ての主な担い手について「父母ともに」の割合が73.5%で7割を超えていますが、平日の家事や育児の役割分担についてはすべての家事や育児の項目で“母親”（「どちらかといえば母親」「主に母親」の合計）の割合が最も高くなっており、母親から父親に協力してもらいたい家事や育児は「子どもとの遊び（本の読み聞かせ等）」の割合が29.2%で最も高くなっています。

(2) 子どもの生活実態について

生活費の負担感について“負担に感じる”（「とても負担」「ある程度負担」の合計）の割合をみると、『光熱費』の項目が73.5%で最も上位となっています。一方、「負担ではない」の割合をみると、『医療費』の項目が70.2%で最も上位となっています。また、子どもにかかる費用で負担に感じるものについて「制服・体操服の購入費」の割合が55.4%で、半数以上の方が負担に感じていることがわかります。

子どものための支援の利用希望について「生活や就学のための経済的な補助」の割合が70.8%で7割を超え、経済面での支援を求める方が多くなっています。

(3) 子どもの育ちをめぐる環境について

子どもをみてもらえる親族・知人について「いずれもいない」の割合が15.1%で1割半ば程度であることから、子どもをみてもらえる親族や知人がいる方が多いことがわかります。また、親族・知人に子どもをみてもらう状況について「相手の負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」の割合が42.9%である一方、「相手の負担や時間的制約が大きく心配である」（37.9%）、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」（32.6%）の割合から、預けることに関して心苦しい、または心配に思われている方もいらっしゃる事がうかがえます。

子育てに関する相談相手について「配偶者・パートナー」（84.0%）、「祖父母等の親族」（69.0%）、「友人や知人」（50.0%）の割合で半数を超え、身近な人が相談相手として挙げられている一方、公的機関などに相談する方は多いとはいえません。

子育てに関する情報の入手方法について「幼稚園・保育所（園）・認定こども園」（62.0%）、「隣近所の人、知人、友人」（56.0%）、「インターネット」（53.6%）の割合で半数を超えていますが、「市の広報やパンフレット・ホームページ・子育て応援アプリ」（18.7%）、「市役所や市の機関」（5.7%）など市からの情報入手の割合は高いとはいえません。

(4) 定期的な教育・保育の利用状況について

定期的な教育・保育事業の利用状況について、いずれかの事業を利用されている方は87.3%で、9割近い方が保育施設を利用していることがわかります。また、平日に預ける施設やサービスを選ぶ際に重視する点について「家からの距離が近いこと」の割合が76.8%で7割半ばとなっており、自宅から近い保育施設を選ぶ方が多くなっています。

定期的な教育・保育事業の利用希望がある方の割合をみると、平日が93.4%、土曜日が62.0%、日曜日・祝日は32.8%、長期休暇期間中は63.3%となっており、平日以外にも土曜日や長期休暇期間中において6割以上の需要があることがわかります。

(5) 地域の子育て支援事業の利用状況について

地域子育て支援事業の現在の利用状況について「いずれも利用していない」の割合が53.3%で最も高い一方、利用されている方の事業は「浜田市子育て世代包括支援センター「すくすく」」の割合が42.2%となっています。また、今後の利用希望・利用増希望について「浜田市子育て世代包括支援センター「すくすく」」の割合が58.4%であることから、現在利用されていない方を含め今後の利用の増加が見込まれます。さらに、地域子育て支援事業に求めるものについて「自由に遊べる場（屋内）の提供」（81.9%）、「自由に遊べる場（屋外）の提供」（76.8%）などの割合が高く、遊び場の提供を求める声が特になくなってきています。

民間の子育て支援団体や子育てサークルの認知・参加状況について「知らない」の割合が53.3%で半数以上を占め、「参加している」の割合はわずか8.4%にとどまります。また、参加していない方が今後の参加を希望する子育てサークルの活動内容について「子どもの遊び場を提供してもらえる」の割合が71.9%で、地域子育て支援事業同様に子どもの遊び場を求める声が多くなっています。

(6) 子どもが病気の際の対応について

子どもが傷病の際の対処方法について「母親が休んだ」（87.2%）、「父親が休んだ」（45.5%）といった両親が休む選択肢の割合が高くなっていますが、母親は父親と比べて2倍近い割合であり、母親に負担が多いことがうかがえます。また、実際の対応と同様、希望する対応についても「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」の割合が81.6%で、「病児・病後児のための保育施設等を利用したい」の割合の10.5%と大きな差があります。しかし、子どもが傷病の際に利用したい病児・病後児保育施設について「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」の割合が54.8%で半数を超え、「いずれも利用したいと思わない」の割合は23.8%であることから、病児・病後児保育を使うことに抵抗がある方が多いとはいえません。なお、「いずれも利用したいと思わない」と答えた方の理由については「親が仕事を休んで看る」の割合が59.5%となっています。

(7) 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う事業の利用状況について

不定期な教育・保育事業の利用希望について、いずれかの事業に利用希望がある方の割合は53.9%で、「利用希望はない」の割合の44.0%を上回っており、特に「休日保育」（28.0%）や「一時預かり」（26.2%）の割合をみると3割近い需要があります。なお、利用を希望しない理由については「利用する必要がある（子どもの教育や発達のため、保護者が子どもをみている等）」の割合が68.5%となっています。

子どもを泊りがけで預けなければならなかった際の対処方法について、預ける必要があった場合の対処方法は「（同居者を含む）親族・知人にみてもらった」の割合が30.7%で3割程度の方が親族や知人に泊りがけで預かってもらっている一方、事業を利用された方はいませんでした。

(8) 就学後の放課後の過ごし方について

就学後の放課後に過ごす場所の利用希望について、低学年は「放課後児童クラブ（学童保育）」の割合が76.9%で高い需要がありますが、高学年は38.5%で、低学年における希望から4割近く減少しています。また、高学年は「自宅」の割合が69.2%となっており、4年生以降は自宅で放課後を過ごすことを想定されている方が多いことがわかります。

(9) 子どもの教育や地域での子育てについて

子どもに身につけてほしい力や大切にしてほしいと思うことについて「人との関わりを大切にし、コミュニケーション能力を身につけること」(56.3%)、「あいさつや礼儀、社会的マナーを身につけること」(49.7%)などの割合が高く、他者との円滑な関係を築ける力を優先して身につけてほしいと考えている方が多くなっています。

子どもに育む役目を担う場所について「家庭」の割合が最も高い項目は『基本的な生活習慣』『社会的ルールや礼儀作法』『自己肯定感』、「学校等」の割合が最も高い項目は『基本的な学力』『コミュニケーション能力』『健康管理や体力づくり』、「地域」の割合が最も高い項目は『伝統や文化の伝承』となっています。

地域で子育てを支えるために必要なことについて「子どもの防犯のための声かけや登下校の見守りをする人がいること」の割合が76.5%で7割半ばとなっており、子どもの安全を守ることが地域における子育て支援として求められています。

(10) 保護者の就労状況・職場の両立支援について

保護者の就労状況について“働いている方”(「フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)」「パート・アルバイト等(フルタイム以外の就労)」の合計)の割合をみると、母親は87.0%、父親は93.1%であることから、共働き世帯の多さがうかがえます。

保護者の育児休業制度の取得状況の利用状況について、母親は「取得していない」の割合が14.5%であるのに対して、「取得した(取得中である)」の割合が64.5%となっています。一方、父親は「取得していない」の割合が74.1%であるのに対して、「取得した(取得中である)」の割合が17.5%と、母親と父親で育児休業の取得率に大きな差がみられます。なお、父親が育児休業制度を取得しなかった理由について「仕事が忙しかった」の割合が50.4%で、仕事の多忙を理由として育休制度を取得できていない父親が多いことがわかります。

育児休業給付・保険料免除の認知状況について「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」の割合は51.5%で半数程度となっています。

(11) 児童虐待に関することについて

児童虐待の種類の認知について、4種類いずれも100.0%近い割合で認知されています。また、児童虐待が疑われる子どもを見聞きした場合の対応について「必要な支援が行われるように誰かに相談をする」(53.0%)、「児童相談所などの相談窓口に連絡する」(50.0%)の割合で半数を超え、何かしらの行動を起こす方が多いことがうかがえます。

子どもをしつけとしてたたいたりすることへの考えについて“必要と思う”(「日常的に必要と思う」「時には必要と思う」の合計)の割合が43.7%で、「絶対に必要としない」の割合の40.4%をやや上回っています。

(12) 子ども食堂について

浜田市の子ども食堂の認知状況について“市内に子ども食堂があることを知らない”(「子ども食堂は知っているが、市内にあることは知らなかった」「子ども食堂を知らなかった」の合計)の割合が52.7%で、“市内に子ども食堂があることを知っている”(「市内に子ども食堂があることを知っていて、利用したことがある」「市内に子ども食堂があることは知っているが、利用したことがない」の合計)の割合の47.0%を上回っています。

また、「市内に子ども食堂があることを知っていて、利用したことがある」と答えた方の割合は9.0%で1割を下回っていますが、利用された方の今後の子ども食堂の利用希望については「今後も利用したい」の割合が90.0%で高くなっています。

子ども食堂が市内にあることを知っているが利用したことがない理由について「利用しづらい（気が引ける）」（38.1%）、「利用する必要がない」（37.3%）、「利用してよいのかわからない」（34.1%）など高い割合の選択肢はなく、様々な理由が挙げられています。

（13）浜田市の子育て支援施策全般について

居住地域における子育て環境や支援への満足度について「ふつう」の割合が40.7%、“不満足”（「あまり満足していない」「満足していない」の合計）の割合が32.2%、“満足”（「非常に満足している」「やや満足している」の合計）の割合が26.8%となっています。

居住地区における子育て環境や支援に関する意見においては、子ども（親子）の遊び場・イベントを求める声が最も多くなっています。

1-2 小学生保護者調査

（1）子どもと家族の状況及び日常生活について

子育ての主な担い手について「父母ともに」の割合が65.1%で最も高くなっていますが、平日の家事や育児の役割分担についてはほとんどの項目で“母親”（「どちらかといえば母親」「主に母親」の合計）の割合が最も高くなっており、特に『炊事』（80.9%）、『掃除』（67.1%）、『食事の後片付』（65.0%）など家事の項目が上位となっています。また、同設問において『子どもとの遊び』の項目は「ほぼ同じ程度」の割合が43.8%で最も高くなっているものの、母親から父親に協力してもらいたい家事や育児については「子どもとの遊び」の割合が34.2%で最も高く、両親ともに子育てを行っていても母親への負担が多くなっている可能性があります。

（2）子どもの生活実態について

生活費の負担感について“負担に感じる”（「とても負担」「ある程度負担」の合計）の割合をみると、『光熱費』の項目が79.6%で最も上位となっています。一方、「負担ではない」の割合をみると、『医療費』の項目が48.6%で最も上位となっていますが、就学前児童保護者に比べて2割以上低くなっています。また、子どもにかかる費用で負担に感じるものについて「制服・体操服の購入費」の割合が68.4%で7割近い方が負担に感じており、就学前児童保護者よりさらに1割以上高くなっています。

子どものための支援の利用希望について「生活や就学のための経済的な補助」の割合が64.3%で6割半ばとなっており、就学前児童保護者同様、経済面での支援を求める方が多くなっています。

（3）子どもの育ちをめぐる環境について

子どもをみてもらえる親族・知人について「いずれもない」の割合が17.6%で2割を下回っていることから、子どもをみてもらえる親族や知人がいる方が多いことがわかります。また、親族・知人に子どもをみてもらう状況について「相手の負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」の割合が42.8%である一方、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」（34.1%）、「相手の負担や時間的制約が大きく心配である」（31.1%）の割合から、預けることに関して心苦しい、または心配に思われている方もいらっしゃるとうかがえます。

子育てに関する相談相手について「配偶者・パートナー」（77.7%）、「友人や知人」（56.3%）、「祖父母等の親族」（54.4%）の割合で半数を超え、就学前児童保護者同様に身近な人が相談

相手として挙げられている一方、公的機関などに相談する方は多いとはいえません。

(4) 子どもが病気の際の対応について

子どもが傷病の際の対処方法について「母親が休んだ」(83.5%)、「父親が休んだ」(34.1%)といった両親が休む選択肢の割合が高くなっていますが、母親は父親と比べて2倍以上の割合であり、就学前児童保護者同様、母親に負担が多いことがうかがえます。また、子どもが傷病の際に希望する対応について「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」の割合が86.3%で8割半ばとなっており、両親が仕事を休んで子どもを看ることを希望している方が多いことがわかります。しかし、両親が仕事を休む以外の対応をしたことがある方が仕事を休まなかった理由については「仕事が多忙等で休みづらい」の割合が61.8%で、仕事を休みたくても休めない場合があることがうかがえます。

(5) 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う事業の利用状況について

不定期な教育・保育事業の利用状況について「利用していない」の割合が94.0%で非常に高く、利用を希望しない理由については「特に利用する必要がない」(74.0%)などの割合が高いことから、小学生保護者においては不定期な教育・保育事業の需要は高くないことがうかがえます。

子どもを泊りがけで預けなければならなかった際の対処方法について、預ける必要があった場合の対処方法は「(同居者を含む)親族・知人にみてもらった」の割合が16.2%で2割を下回っています。また、事業を利用された方はいませんでした。

(6) 放課後の過ごし方について

放課後の過ごし方について、低学年は「放課後児童クラブ(学童保育)」の割合が最も高く58.8%で、次いで「自宅」の割合が53.0%となっていますが、子どもの年齢別ですでに低学年を終えている9~11歳をみると「自宅」の割合が59.5%で最も高くなっていることから、実際には自宅で過ごしていた方が多いとみられます。また、高学年は低学年に比べて「放課後児童クラブ(学童保育)」の割合が22.0%と減少し、「自宅」の割合が70.3%と増加しています。

放課後児童クラブの利用を希望されている方の学校休業日の利用希望について「長期の休暇期間中」の割合をみると、低学年は65.0%、高学年は63.8%で、いずれも6割以上の需要があることがわかります。

(7) 子どもの教育や地域での子育てについて

子どもに身につけてほしい力や大切にしてほしいと思うことについて「人との関わりを大切にし、コミュニケーション能力を身につけること」(58.0%)、「あいさつや礼儀、社会的マナーを身につけること」(50.3%)などの割合が高く、就学前児童保護者同様、他者との円滑な関係を築ける力を優先して身につけてほしいと考えている方が多くなっています。

子どもに育む役目を担う場所についても就学前児童保護者と同様の傾向で、「家庭」の割合が最も高い項目は『基本的な生活習慣』『社会的ルールや礼儀作法』『自己肯定感』、「学校等」の割合が最も高い項目は『基本的な学力』『コミュニケーション能力』『健康管理や体力づくり』、「地域」の割合が最も高い項目は『伝統や文化の伝承』となっています。

地域で子育てを支えるために必要なことについて「子どもの防犯のための声かけや登下校の見守りをする人がいること」の割合が66.8%で6割半ばとなっており、就学前児童保護者同様、子どもの安全を守ることが地域における子育て支援として求められています。

(8) 保護者の就労状況について

保護者の就労状況について“働いている方”（「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）」「パート・アルバイト等（フルタイム以外の就労）」の合計）の割合をみると、母親は92.1%、父親は89.3%で、父母ともに約9割の方が働いており、共働き世帯の多さがうかがえます。また、フルタイム以外で就労している母親のフルタイム就労への転換希望について「今後（も）パート・アルバイト等の就労を続けることを希望する」の割合が43.2%で最も高い一方、“フルタイムへの転換希望がある”（「出来ればフルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」「出来ればフルタイムへの転換希望があるが、実現できる見込みはない」の合計）の割合が49.3%であることから、今後さらにフルタイムで働く母親が増えることが見込まれます。

(9) 児童虐待に関することについて

児童虐待の種類の認知について就学前児童保護者同様、4種類いずれも100.0%近い割合で認知されています。また、児童虐待が疑われる子どもを見聞きした場合の対応について「必要な支援が行われるように誰かに相談をする」（49.7%）、「児童相談所などの相談窓口に連絡する」（42.9%）の割合が高いものの、半数を下回っています。

子どもをしつけとしてたたいたりすることへの考えについて“必要と思う”（「日常的に必要と思う」「時には必要と思う」の合計）の割合が47.0%で、「絶対に必要としない」の割合の36.0%を1割程度上回っています。

(10) 子ども食堂について

浜田市の子ども食堂の認知状況について“市内に子ども食堂があることを知っている”（「市内に子ども食堂があることを知っていて、利用したことがある」「市内に子ども食堂があることは知っているが、利用したことがない」の合計）の割合が50.8%で、“市内に子ども食堂があることを知らない”（「子ども食堂は知っているが、市内にあることは知らなかった」「子ども食堂を知らなかった」の合計）の割合の48.9%を上回っており、就学前児童保護者に比べて認知度がやや高くなっています。

また、「市内に子ども食堂があることを知っていて、利用したことがある」と答えた方の割合は9.9%で約1割となっていますが、利用された方の今後の子ども食堂の利用希望については「今後も利用したい」の割合が94.4%で非常に高くなっています。

子ども食堂が市内にあることを知っているが利用したことがない理由について「利用する必要がない」（45.0%）、「利用しづらい（気が引ける）」（24.8%）、「利用してよいのかわからない」（22.8%）など高い割合の選択肢はなく、様々な理由が挙げられています。

(11) 浜田市の子育て支援施策全般について

居住地域における子育て環境や支援への満足度について「ふつう」の割合が44.8%、“不満足”（「あまり満足していない」「満足していない」の合計）の割合が32.4%、“満足”（「非常に満足している」「やや満足している」の合計）の割合が22.2%となっています。

浜田市に期待する子育て支援の充実について「子どもが土日活動したり遊べる場を充実してほしい」（50.8%）、「親子が安心して集まることができ、出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしい」（40.9%）などの割合が高くなっており、子どもや親子で遊べたり楽しめたりする場所について求められていることがわかります。

居住地区における子育て環境や支援に関する意見においては、就学前児童保護者同様、子ども（親子）の遊び場・イベントを求める声が最も多くなっています。

保護者票まとめ

- 子育ての担い手としては父母ともに行っている方が多いものの、平日の家事や育児の役割は母親に偏る傾向にあり、母親が父親に協力してもらいたい家事や育児についても子どもとの遊びという回答が多いことから父親のさらなる子育てへの協力が求められます。
- 子どものための支援は経済的援助を求める方が多く、子どもにかかる費用に対しては特に制服等の購入費が負担に思われており、支援や対策の必要があるといえます。
- 保育事業の利用希望は平日だけでなく土曜日や長期休暇期間中にも6割以上の需要があり、母親のフルタイム就労への転換などによりさらなる需要増加の可能性などから、環境整備が求められます。
- 相談相手は身近な方が上位となっていますが、身近な相手に相談しづらい、あるいは相談しても解決しづらい問題などについて、相談内容ごとに適切な機関へ相談することで解決への近道となる可能性もあり、相談できる機関の周知や、普段から相談しやすい体制や場所づくりなども重要といえます。
- 子どもが傷病で事業を利用できない際は基本的に親が子どもを見ることを希望している保護者が多いものの、病児・病後時保育を利用したくないと考えている方は多いとはいえないため、積極的な利用は希望していなくても一定の需要があるといえます。子どもが傷病の際は母親が仕事を休んで対応した方が多いことから、忙しく休めないときなどに必要に応じて病児・病後時保育を利用してもらえるよう促していくことも重要といえます。
- 育児休業給付・保険料免除をいずれも認知されている方は半数程度となっていますが、こういった制度に関しては親になる前から労働者の立場として知られるべきであるともいえます。仕事と育児の両立促進のため、性別や年代に関わらず支援制度等の認知を広げる必要があります。企業から労働者に向けた積極的な情報提供なども有効といえます。そのために、まず企業への理解促進を図ることも大切です。
- 子どもをしつけとしてたたいたりすることが必要と思う方はいずれの保護者調査も半数近い割合となっていますが、子どもに苦痛を与える行為はいかなる理由があってもしつけではなく体罰であり、恐怖心により子どもの言動を統制するものであるため心身の発達等に悪影響を及ぼす可能性があるといわれています。子育てにおいて子どもを叱りすぎてしまう悩みが多いことから、体罰等によらない子育てを推進するため、保護者に対する子育て相談等の充実や社会全体への啓発が重要です。
- 子ども食堂に関しては、まず市内にある子ども食堂について認知してもらうことが大切であり、保育施設や子育て支援施設、学校などでの広報や、SNSでの開催情報の発信なども有効といえます。また、誰でも参加しやすい形でのイベントの開催などを積極的に行うことで、利用しづらいというイメージを変え、より多くの人が利用していくことで、必要な方が気軽に子ども食堂を利用しやすくなることが望まれます。
- 伝統や文化の伝承は地域において育むことが望まれており、文化にふれる機会を地域で積極的につくり、伝統を受け継いでいくことが大切です。
- 全体の設問や意見を通して、子ども（親子）の遊び場・イベントを求める声が非常に多く、こうした部分での充実が求められます。

2 小学生調査

(1) 自分自身について

自身に当てはまることについて“当てはまる”(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計)の割合をみると、『今の自分が好きだ』の項目が71.8%、『育てられている人から大事にされている』の項目が95.0%、『うまくいくかわからないことにもがんばって取り組む』の項目が87.8%、『自分は役に立たないと強く感じる』の項目が17.2%で、肯定的な感情に対しては当てはまると考えている方が多くいることがわかります。

(2) 周りの環境について

自分の居場所について“居場所だと思う”(「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計)の割合をみると、『自分の部屋』の項目が67.7%、『家庭』の項目が92.9%、『学校』の項目が73.8%、『地域』の項目が68.7%、『インターネット空間』の項目が49.5%となっています。なお、『自分の部屋』については「当てはまるものはない、わからない」の割合が22.2%であることから、自室がない方が2割程度いるものとみられます。また、同様に『インターネット空間』についても「当てはまるものはない、わからない」の割合が29.3%であることから、インターネットにアクセスできる環境がない方が3割程度いるものとみられます。

自身の感情について“感じる”(「時々ある」「いつもある」の合計)の割合をみると、『話せる人がいないと感じる』の項目が15.1%、『周りから取り残されていると感じる』の項目が11.1%、『一人ぼっちだと感じる』の項目が15.2%で、孤独感に関する感情がある方はいずれも1割から1割半ば程度となっています。

(3) 周りの人との関わりについて

周りの人との関わりについて“思う”(「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計)の割合をみると、『何でも悩みを相談できる』の項目は家族・親族が83.8%、学校の友人が73.8%、地域の人が52.5%、インターネット上の知人が15.2%となっています。

『困ったときは助けてくれる』の項目は家族・親族が93.9%、学校の友人が88.9%、地域の人が68.7%、インターネット上の知人が20.2%となっています。

『他の人には言えない本音を話せる』の項目は家族・親族が73.8%、学校の友人が61.6%、地域の人が30.3%、インターネット上の知人が9.1%となっています。

(4) 自身の性格について

自身の性格について“思う”の割合をみると、『誰とでもすぐ仲良くなれる』の項目が75.8%、『社会のために役立つことをしたい』の項目が80.8%となっています。

(5) 将来のことについて

将来への明るい希望について“希望がある”(「希望がある」「どちらかといえば希望がある」の合計)の割合が78.8%となっています。

また、自身の将来像について“思う”の割合をみると、『子どもを育てている』の項目が71.7%、『親を大切にしている』の項目が89.9%、『幸せになっている』の項目が86.9%、『結婚している』の項目が67.7%となっており、結婚や子育てといった家庭を持つ将来像を持っている方は7割程度となっています。

(6) 外出状況について

家での過ごし方について「テレビを見る」(83.8%)、「ゲームをする」(74.7%)、「勉強をする」(72.7%)などの割合が高くなっています。

外出頻度について「学校や習い事で平日は毎日、外に出かける」の割合が53.5%で最も高い一方、外出頻度が低い方(「普段は家にいるが、自分の趣味などの用事するときだけ外に出かける」「普段は家にいるが、近くのコンビニなどには出かける」「自分の部屋からは出るが、家からは出ない」「自分の部屋からほとんど出ない」の合計)の割合は12.1%となっています。

(7) 落ち込んだ経験について

物事がうまくいかず落ち込んだ経験について“あった”(「あった(または、今ある)」「どちらかといえば、あった(ある)」の合計)の割合が68.7%となっています。また、落ち込んだ状態から元に戻った経験については“あった”の割合が83.9%となっています。さらに、そのきっかけについては「家族や親戚の助け」(57.9%)、「友達の助け」(52.6%)などの割合が高くなっています。

落ち込んだ際に相談したり助けを求めやすい人について「家族や親戚」(77.8%)、「学校の友達」(59.6%)などの割合が高くなっています。また、家庭や学校以外で悩み事を相談できる場所の認知については「知らない」の割合が63.6%となっています。

(8) 浜田市に期待することについて

浜田市に今後増やしてほしい場所や機会について「家族で出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしい」(70.7%)、「土日に活動したり遊べる場所を増やしてほしい」(56.6%)などの割合が高くなっています。

小学生票まとめ

- 周りの人との関わりは『何でも悩みを相談できる』『困ったときは助けてくれる』『他の人には言えない本音を話せる』のいずれの項目も“思う”と回答した割合は家族・親族、学校の友人、地域の人、インターネット上の知人といった割合の順となっているため、家庭や家族に対する信頼感が高いことがわかります。
- 外出頻度があまり高い方も1割以上みられたことから、必要な際は適切な支援ができるような体制づくりが求められます。
- 落ち込んだ経験は7割程度の方が経験されているものの、8割以上の方がその状態から元に戻っており、そのきっかけは家族や友達などの助けである方が多く、身近な人が支えになっていることから、周囲の方の存在の重要性がうかがえます。
- 相談相手としては家族や学校の友達などを挙げる方が多く、家庭や学校以外で悩み事を相談できる場所についての認知度が低かったことから、身近な人に相談しづらい内容についても相談できる機関を子どもたちに周知することが大切です。子どもが目にしやすい場所での掲示なども有効といえます。また、機関においては子どもが一人でも気軽に相談しやすいような場所づくりも重要といえます。
- 保護者票同様、家族で楽しんだり、土日に遊べるような場所が求められていることから、公園や施設などの遊び場の充実が求められます。